

**一般社団法人**

**コミュニティ・メンタルヘルス・アウトリーチ協会**

**(通称:アウトリーチネット)**

**第4回金沢大会 開催概要・プログラム一覧**

**会期:2026年5月30日(土)~5月31日(日)**

**会場:金沢医科大学病院・金沢医科大学(一部オンデマンド配信)**

**石川県河北郡内灘町大学1-1**

## コミュニティ・メンタルヘルスアウトリーチ協会 第4回金沢大会のご案内

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、コミュニティ・メンタルヘルスアウトリーチ協会への格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、第4回金沢大会を2026年5月30日(土)・31日(日)の両日にわたり、石川県河北郡内灘町の金沢医科大学で開催いたします。

コミュニティ・メンタルヘルスアウトリーチ協会では、アウトリーチ活動を通じて、誰も置き去りにならない地域社会の実現を目指し、支援が必要な人にアウトリーチが届く仕組みや体制を整えると共に、アウトリーチ支援者が集い、お互いにエンパワーメントされることを目的に活動しています。アウトリーチ支援では、重度の精神障害を抱える人が住みなれた場所で安心して暮らしているように多職種で支援する Assertive Community Treatment (ACT) や精神科訪問看護など、訪問による地域生活支援があります。また、訪問支援だけでなく、ひきこもりや不登校、ヤングケアラーなど、潜在的な支援ニーズがあるものの支援につながりにくい人への支援ニーズを見定め、心理的安全性が感じられる居場所づくりや社会とのつながりをもてるようにする支援なども含まれます。

全国でアウトリーチ支援に携わっている精神保健医療福祉の専門職や研究者、行政担当者だけでなく、当事者や家族、地域住民など、様々な役割や立場にある方々を参加対象としています。

今回の大会テーマは「地域で支え合う底力を見てくれんけ！」とし、地域において精神的諸問題を抱えながら支援の届きにくい人々に支援を届けるための支援体制や地域づくりをどのように構築していけばよいかを考えます。アウトリーチ支援の現状と課題を振り返り、今後、アウトリーチ支援の社会実装を進めるための方策や支援体制の構築について議論します。また、精神疾患をもつ人と共に暮らす家族、ひきこもり、ヤングケアラーなど、支援が届きにくい状況に置かれている人々への支援のあり方を考えます。さらに、能登半島地震や奥能登豪雨災害からの復興を見据えてアウトリーチ支援に携わっている方々とともに、今後の中長期的な支援のあり方を見つめ直します。様々な立場・役割の方々にご参加いただき、活発な議論ができますことを願っております。

つきましては、大変恐縮ではございますが、本大会の趣旨をご理解いただき、ご支援ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

謹白

2026年3月吉日

コミュニティ・メンタルヘルスアウトリーチ協会 第4回金沢大会

大会長 長山 豊 (金沢医科大学看護学部 精神看護学)

# 開催概要

1. 大会名：コミュニティ・メンタルヘルスアウトリーチ協会 第4回金沢大会
2. テーマ：地域で支え合う底力を見てくれんけ！
3. 会期：2026年5月30日(土)、31日(日)
4. 会場：金沢医科大学病院・金沢医科大学

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1丁目1番地

5. 大会長：長山 豊（金沢医科大学）  
副大会長：吉田 光爾（東洋大学）
6. 開催形式：現地開催
7. 参加者数：約500名
8. 大会ホームページ  
<https://sites.google.com/view/outreachnetkanazawataikai4/home>
9. 参加費

- ① 第1期お申し込み期間：2026年1月17日(土)～4月10日(金)

お申込み種別	金額
個人正会員・チーム正会員・個人賛助会員・団体賛助会員	8,000
非会員・法人正会員	10,000
大学院生(学生証の提示が必要です)	6,000
当事者・家族・市民・学生(学生証の提示が必要です)	2,000

- ② 第2期・オンデマンド配信お申し込み期間：2026年4月11日(土)～7月31日(金)

お申込み種別	金額
個人正会員・チーム正会員・個人賛助会員・団体賛助会員	10,000
非会員・法人正会員	12,000
大学院生(学生証の提示が必要です)	8,000
当事者・家族・市民・学生(学生証の提示が必要です)	2,000

※市民公開講座は参加費無料です。

## 10. お問い合わせ先

コミュニティ・メンタルヘルスアウトリーチ協会 第4回金沢大会事務局

outreachnet.zenkokutaikai@gmail.com

# プログラム一覧

1 日目 5月30日(土)

・10時～10時30分 オープニングセレモニー

・10時30分～11時10分 金沢医科大学病院 病院中央棟4階 北辰講堂

大会長講演「つながり合う中で生まれるもの」

金沢医科大学看護学部 精神看護学 教授 長山豊

座長：長谷川雅美（富山福祉短期大学）

企画趣旨：支援者と当事者、支える者と支えられる者という区分の中で生じるつながりには、支援者の善意の背後に、侵襲性・加害性・操作性が潜んでいることが少なくなく、しかもそれが無自覚である場合も多い。支援者は、ふと立ち止まり、何のために、誰のために支援をしているのかと自問する。つながることの多面的な意味を考え、気づき、内省しながら、「果たしてこれでよかったのだろうか」と試行錯誤を重ねる。相手とのつながりがもたらす相互作用や相互影響の意味を問い直すことこそが、支援者や当事者という立場を超えて、私たちの存在を再定義することにつながるのではないだろうか。度重なる災害支援に携わった経験も踏まえながら、人と人がつながり合う中で生まれるものについて考えていきたい。

・11時20分～12時 金沢医科大学病院 病院中央棟4階 北辰講堂

教育講演1「アウトリーチとは」

東洋大学大学院 ライフデザイン学研究科 教授 吉田 光爾

司会：岡崎 公彦（岡崎クリニック）

企画趣旨：アウトリーチ支援に関わる援助者は多種多様な立場や職種に拡大しており、生きづらさや孤立を抱え、助けを必要としている人々が地域でその人らしく暮らせるように支援している。アウトリーチでは、訪問支援にとどまらず、その人が地域の人々と共生し、相互につながり合いながら生き生きと暮らせる地域づくりまで含まれる包括的な支援の意味合いを含む。この教育講演では、改めてアウトリーチとは何かを問い直し、それぞれの立場でのアウトリーチの意味を探求する機会をつくりたい。

・13時30分～15時 金沢医科大学病院 病院中央棟4階 北辰講堂

シンポジウム1「アウトリーチ再考」

企画趣旨：Assertive Community Treatment（ACT）、精神科訪問看護、相談支援に基づいた地域づくりの観点から、アウトリーチのこれまでの歩みを振り返り、現状における強みや課題、将来的な展望について共有し、今後、アウトリーチ支援のあり方を考える。

座長：吉田光爾（東洋大学）、長山豊（金沢医科大学）

- 1 ACTのこれまでとこれから  
メンタルヘルス診療所しほふぁーれ 院長 伊藤 順一郎
- 2 精神科訪問看護のこれまでとこれから  
国立健康危機管理研究機構 国立看護大学校 大学校長 萱間真美
- 3 地域づくりのこれまでとこれから  
一般社団法人ライフラボ 相談支援事業所しほふぁーれ 代表理事 金井 浩一

・15時30分～17時30分 金沢医科大学病院 病院中央棟4階 北辰講堂

シンポジウム2「アウトリーチをどう社会に実装するか」

企画趣旨：アウトリーチの理念を踏まえて、地域社会で具現化していくために、精神科訪問看護・ACT・精神保健福祉・ピアサポーターの立場から、地域に根差した実践をどのように展開しているのかについて具体的な活動事例をもとに共有し、アウトリーチの社会実装を促進するための戦略や工夫について議論する。

座長：近田真美子（大阪成蹊大学）、白藤真理（あーる訪問看護ステーション）

- 1 精神科訪問看護の立場から  
トキノ株式会社 訪問看護ステーションみのり 代表取締役 進あすか
- 2 ACTの立場から  
GENESIS株式会社 G-ACT 統括マネージャー 角谷圭太郎
- 3 精神保健福祉士の立場から  
石川県精神保健福祉士会 会長／加賀こころの病院 蔭西 操
- 4 当事者の立場から  
WRAP アドバンスレベルファシリテーター／ピアサポーター 増川ねてる

・13時30分～17時 金沢医科大学病院 病院中央棟4階 橘ホール

金沢大会コラボ企画「再発見される言葉たち」

企画者：藪一明（桜ヶ丘病院）、長田恭子（金沢大学）、片山美穂・相上律子（公立小松大学）

松田茂喜（金沢「当事者研究」研究会）、中野喜文（当事者団体 Tips(ティップス)）

講師/ファシリテーター：ラグーナ診療所 院長 森越まや

ラグーナ出版 代表取締役 川畑善博

病があっても、市民として、自分の人生の主人公として、社会に根を張って暮らすこと。そのためには、心に浮かぶ声に丁寧に耳を澄ませ、対話し、関係をつないで行動していくことが欠かせません。精神科病院のないイタリアでは、それぞれの地域の文化や歴史、暮らしに深く根ざした多様な実践が積み重ねられてきました。なかでも北の街トレントでは、患者や家族を主役にした支援の中から、ファーレ・アッシエーメ（ともに考え、行動しよう）運動が育まれました。「誰もが力を持ち、変化はいつでも可能である」という信念のもと、立場や役割の違いを越えて支え合いながら、地域の中でさまざまな活動が展開されています。その一つが、それぞれの体験を語り合う「再発見される言葉たち」の集いです。ここでは、当事者、家族、支援者の体験が一人の市民として対等に扱われ、ともに考え、ともに学び合います。一人ひとりが大切な語り手であり、同時に聞き手でもあります。語られる言葉は、その人の人生や記憶と結びつきながら、共有され、編み直されていきます。言葉を探することは、自分自身を再発見することであり、自分の人生の主役として立ち上がることでもあります。また、言葉を受け取る誰かを励ますことでもあるのです。

私たちラグーナ出版は、「病の経験を言葉にして力に変えよう」という思いのもと、2005年、病院のデイケアでの本づくりから患者の皆さんとともに本を作り続けてきました。本を通してつながりが生まれ、2017年にはイタリア・トレントを訪ね、対話を重ねました。さらに2024年には鹿児島にイタリアチームを迎え、「再発見される言葉たち」の日伊大会を開催し、鹿児島では月に一度の集いを続けてきました。そこでは、言葉や語りが結ぶ新たなつながりが生まれています。

昨年に引き続き、今年は金沢で、全国の皆さまと共にこの時間を分かち合います。当日は、第一部でトレントと鹿児島の実践を紹介し、日伊大会の様子を上映します。第二部では、実際に「再発見される言葉たち」を開催し、第三部では自由に語り合う時間を設けます。

当事者、家族、支援者が、肩書きを越えて同じ「市民」として出会い、互いの声に耳を傾けること。そこから対話が始まり、地域に根ざしたアウトリーチ・ネットワークが広がっていくこと。この場が、よりよい未来をともに作る一歩となることを、私たちは信じています。

<自主企画>

- 13時30分～15時 金沢医科大学 医学教育棟4階 E41 講義室  
自主企画1：社会的孤立、セルフネグレクト… ～いわゆる「ごみ屋敷」を考える～  
企画者：足立千啓、鴨藤祐輔、須田竜太、西内絵里沙、藤野恭子
  
- 13時30分～15時 金沢医科大学病院 中央棟3階 中会議室3  
自主企画2：歌のチカラが自分を元気にする、誰かを元気にできる」  
—ともに歌い、感じるピアサポートの体験共有—  
企画者：河野文美、鈴岡恵理、久保田彩子
  
- 16時～17時30分 金沢医科大学病院 病院中央棟3階 中会議室3  
自主企画3：あつまれ ちいきいこうの森～架け橋となる地域移行の課題と可能性～  
企画者：須田竜太、戸田竜也、大歳明子、白澤珠理
  
- 16時～17時30分 金沢医科大学病院 病院中央棟3階 中会議室2  
自主企画4：訪問医療部会/人権・権利擁護WG合同企画 「症例検討会」  
企画者：岡崎公彦、渡邊真里子
  
- 16時～17時30分 金沢医科大学病院 病院中央棟3階 中会議室2  
自主企画5：寄り添いから一歩先へ ～対話の中に眠るCBTの種～  
企画者：板橋朱麻留、富樫剛清、前川麻友

2 日目 5月31日(日)

・9時～12時 金沢医科大学病院 病院中央棟4階 橘ホール

教育講演2「コミュニティでウェルビーイングを高める知恵」

演者：金沢工業大学 心理科学研究所 所長／教授 塩谷亨

演者：株式会社メンタルヘルスネクステージ 代表取締役 平山美和子

司会：大江真吾（石川県立看護大学）

ウェルビーイングという言葉が日常的によく耳にするようになりました。しかし、この言葉の意味を正確に説明できる人はそれほど多くはないと思います。実は、この言葉はポジティブ心理学と切っても切れない関係にあります。

この教育講演では、まず、ウェルビーイングの意味をポジティブ心理学の流れを含め、丁寧に説明するので、参加者は、ウェルビーイングの意味を正しく理解できるようになります。さらに、お仕事とウェルビーイングとの関係も含めて、企業活動とウェルビーイングの関係を企業との共同研究の結果も含め紹介します。

また、この大会の参加者の多くが対人援助に携わっていらっしゃることに鑑み、ウェルビーイングを高める効果的な方法（ポジティブエクササイズ）のいくつかを紹介し、これらを適用した実証的な研究結果を紹介します。さらに、ポジティブエクササイズのいくつかを実際に体験していただきます。このアクティビティの体験をもとに、日頃接していらっしゃる対象者のウェルビーイングを高めるにはどのようにしたらよいかを考えます。

ところで、ポジティブ心理学の実践活動の対象は、個人の「こころ」から始まり、対人関係、組織（企業も含む）、コミュニティへと展開してきました。

コミュニティへの展開の例として、最後に、障害者雇用に取り組む企業を対象にした新たなネットワークづくりの試みを紹介します。

企業に取り組む障害者雇用は、法的な義務という側面に焦点が当てられることが多く、それが企業にもたらすポジティブな効果にはそれほど注意が払われていません。したがって、実際に障害者雇用積極的に取り組むことに、ためらいや不安を感じている担当者も多いと思われます。しかし、障害者雇用に取り組むことは、職場に多様な価値観を取り入れ、新たな人間的な関わりを生み出すことにもつながります。すなわち、障害者雇用に取り組むことは、法的義務を遂行するのみならず、従業員一人ひとりの気づきや相互理解を深め、結果として職場全体のウェルビーイングを高める可能性を持っています。

演者（平山）は、障害者雇用が職場全体のウェルビーイングの向上に役立つという可能性を追求するために、障害者雇用に関する不安を解消し、経験や工夫を共有していく企業間のネットワークを構築しました。さらに、複数の福祉事業所間の情報交換を可能にし、地域全体に雇用の流れを生み出し、支援体制をより強化していくことができると考えています。これまでの一連の成果と今後の展望を紹介いたします。

・9時～10時30分 金沢医科大学病院 病院中央棟4階 北辰講堂

シンポジウム3「支援が届きにくい人への支援 精神疾患をもつ人と共に暮らす家族」

企画趣旨：精神疾患をもつ人と共に暮らす家族は、本人への関わり方に不安や戸惑いを抱え、本人を支えなければいけないという義務感や、家族の関わり方によって発症や症状再燃につながってしまったのではないかという自責感を強めるなど、さまざまな辛さや困難を抱えている。このシンポジウムでは、メリデン版訪問家族支援に基づいた家族支援の実情、精神疾患をもつ人と共に生きる親や配偶者の立場からの経験を共有し、家族支援のあり方を探求したい。

座長：梁田英麿（東北福祉大学せんだんホスピタル）、川口めぐみ（福井大学）

- 1 メリデン版訪問家族支援にもとづく支援者の立場から  
かのあ訪問看護ステーション 看護師 岡由希子
- 2 精神疾患を持つ子と共に生きる親の立場から  
石川県精神保健福祉家族会連合会 会長 中谷賢宗
- 3 精神疾患を持つ人と共に生きる配偶者の立場から  
精神疾患をもつ人のパートナーの会@金沢 管理人 荒木裕美子

・10時40分～12時10分 金沢医科大学病院 病院中央棟4階 北辰講堂

シンポジウム4「支援が届きにくい人への支援 ひきこもり・ヤングケアラー」

企画趣旨：ひきこもりになるきっかけは、学校や職場での人間関係、精神疾患、インターネット依存など複雑な要因が絡み合っている。ひきこもり当事者および家族が専門機関に相談することができても、結果的に支援につながらない場合がある。また、本来大人が担う責任を引き受け、子どもとして自由に生きられないヤングケアラーと呼ばれる状態に追いやられている子どもたちがいる。本シンポジウムでは、生きづらさを抱える当事者および当事者と共に暮らす家族が相互につながりあい、さまざまな思いをわかちあい、生きづらさを抱えながら社会とのつながりを模索し、その人らしく活動できる場をつくっていくうえでの支援のあり方を考えたい。

座長：藤田徹（内灘町社会福祉協議会）、後田ユカリ（一般社団法人みんなの青空～虹色 room～フリースクール）

- 1 ひきこもりの当事者や家族を支える立場から  
一般社団法人いまここ親の会 ひきこもりソーシャルプロダクション 代表 林 昌則
- 2 ひきこもりの当事者や家族を支える立場から  
家族とひきこもりを考えるKH北陸会 事務局 本間 雅代
- 3 ヤングケアラーにある子どもを支える立場から  
ヤングケアラープロジェクトいしかわ 代表理事 五十嵐 峰子

・9時～10時30分 金沢医科大学 医学教育棟4階 E41 講義室

シンポジウム5「災害からの復興を見据えたアウトリーチ」

企画趣旨：能登半島地震から2年半が経過しようとしている。被災地域において発災前から現在にかけて継続的に精神障害をもつ当事者をアウトリーチ支援している支援者は、今、何を感じ、何を考え、何に向けて、当事者および地域住民と関わり続けているのだろうか。本シンポジウムでは、東日本大震災および能登半島地震において精神障害をもつ人や家族、地域住民のこころの健康への支援活動を続けてきた支援者の経験をもとに、災害からの中長期的な復興を見据えたアウトリーチ支援が担う役割や意味を考えたい。

座長：田中浩二（金沢大学）、藪下佳代（のとささえーる）

- 1 能登半島地震で被災した精神障害をもつ人や家族への支援  
株式会社れん らいず訪問看護ステーション 統括責任者 宮本満寛
- 2 東日本大震災で被災した精神障害をもつ人や家族への支援  
相馬広域こころのケアセンターなごみ センター長 米倉一磨
- 3 能登半島地震で被災した地域住民への支援  
金沢大学 金沢大学医薬保健研究域保健学系 保健学系 看護科学領域  
臨床実践看護学講座 精神看護学 教授 田中 浩二

・10時40分～12時10分 金沢医科大学 医学教育棟4階 E41 講義室

シンポジウム6「地域の特性や文化に根差した居場所づくり」

企画趣旨：都市化や高度情報社会化、ライフスタイルの多様化に伴い、地域での共同体の中での相互扶助の機能は弱まり、地域のつながりの希薄化が進んでいる。様々なライフイベントや健康問題に伴う困難に対して、周囲に相談できず、困難を抱えたまま孤立してしまうことも少なくない。本シンポジウムでは、障害福祉事業を通じた地域づくり、伝統工芸と障害福祉を掛け合わせによる新しい価値や可能性の創造、競技性スポーツを通じた当事者が生きがいや誇りを感じられる活動など、地域の特性や文化に根差した独創的な居場所づくりによって、生き生きとしたコミュニティを形成するプロセスを学ぶ。

座長：大江真人（金沢医科大学）、沖田友美（合同会社さやかな光 はな工房）

- 1 能登に住む人々の暮らし×障害福祉  
一般社団法人ななお・なかのと就労支援センター センター長 木谷昌平
- 2 伝統工芸×障害福祉  
株式会社 CACL 代表取締役 奥山 純一
- 3 ソーシャルフットボール×障害福祉  
GENESIS 株式会社 代表取締役、石川県精神障害者フットサルクラブ-ルミナス- 代表 兼 総監督、一般社団法人 FSV スポーツアカデミー-ヴィンセドール白山フットサルクラブ- 事業部 マネージャー（パラスポーツダイレクター） 別宗利哉

<自主企画>

- ・ 9 時～10 時 30 分 金沢医科大学病院 病院中央棟 3 階 中会議室 3

自主企画 6 : リカバリーストーリーを語る

企画者 : 鷹子剛、横田季子、五ノ坪洋孝、前田洋佐

- ・ 10 時 40 分～12 時 10 分 金沢医科大学病院 病院中央棟 3 階 中会議室 3

自主企画 7 : アウトリーチネット訪問支援・訪問看護部会企画

「地域精神保健を支えるアウトリーチの実装条件を探る

～ベルギーの制度改革・モバイル支援とイタリアのインクルーシブ防災～」

企画者 : 野々上武司、三瓶英美、山田悠平

- ・ 10 時 40 分～12 時 10 分 金沢医科大学病院 病院中央棟 3 階 中会議室 2

自主企画 8 : ケアと地域づくりとしてのヒューマンライブラリー

～誰もがつながり合う一つの手がかり（実践編）～

企画者 : 本間貴宣、金井浩一、田淵誠、中野千世、浦林翼、高山京子

・13時40分～15時10分 金沢医科大学病院 病院中央棟 4階 北辰講堂

市民公開講座 「おんぼらあっと、おいでまっし☆ 復興に向けてつながり合う底力！」

企画趣旨：大きな災害が生じた後、中長期的な復興に向けて、自ら現地に出向き、被災されている方はどういう状況におかれていて、どういう思いを抱えているのか、被災者に寄り添って行動されている人々がいる。また、メディアという立場で、被災地で暮らし続ける被災者のリアルな声を聴き続け、その声を様々な媒体を用いて世の中に発信し続けている人もいます。

タイトルの「おんぼらあっと、おいでまっし」は、金沢弁で「ゆっくりと、お越してくださいね」という意味であり、市民に気軽に足を運んでほしいというメッセージである。演者が変わりゆく能登や福島のリアルな現状を様々な立場で見守り、関わり続けてきたからこそ体験したこと、感じたことについて、ざっくばらんに楽しい雰囲気の中で市民の皆さんと共有し、今後の復興に向けて一人の市民として、どのように被災地の人々とつながり、共に歩むことができるのかを考えたい。

司会：平見夕紀（フリーアナウンサー）

1. 石川テレビ放送株式会社 報道制作局 報道制作部 担当部長/アナウンサー 稲垣真一
2. 金沢医科大学 看護学部 精神看護学 長山 豊

司会 平見夕紀さんからのメッセージ

「能登半島地震の発災当時、何が起きているのか分からないまま、不安と混乱の中にいました。発災直後は、突然いつもの暮らしが止まり、これからどうすればいいのか…、ただ途方に暮れる時間が続きました。「前向きに」「頑張る」という言葉をかけていただく一方で、気持ちが追いつかず、前を向けない自分に戸惑うこともありました。ボランティアの方や報道の方が現地に足を運び、心を寄せてくださる一方で、被災者である私はその場所で毎日の生活を続けています。その時間の重なり方には、少なからず隔たりを感じることもありました。発災から二年が経った今も、心が折れそうになる瞬間はあります。それでも、ゆっくりでも一歩ずつ前に進んでいきたい——その思いを、被災者の一人として、演者の皆さんと共に語り合います。」